

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方針
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
1 生徒を伸ばす学習指導	① 研究授業(教科) 全教職員が年間2回以上参加	・初任者研修,授業力向上研修,中高ティームティーチング公開授業等,研修の機会を活用し,授業力向上に関する研修を行う。 ・年2回の相互参観授業月間を設定する。 ・校内実力テストや模擬試験の成績を回覧し,各学年の学力状況を共有する。ハイスクールオンラインとClassiを紐付けするなど,学習指導がしやすい環境を整える。 ・1週間ごとに週末課題を課し,家庭での学習習慣をつけさせる。また,実態に応じた補習授業を計画し,積極的に実践する。 ・十分なガイダンスを行った後に習熟度別クラスを国数英において編成し,少人数による指導を徹底する。また補習においては学科の枠を越えた横断的な授業展開を行う。また,授業の指導法と評価の在り方について全教職員が研修し,実践する。 ・学年初めに各学年の進路希望の状況と成績等の現況について分析し,実態に応じた補習,個別指導を実践し,実態に応じた補習計画等の年間計画を立てる。年間5回の進路希望調査を行い,個別指導計画の見直しを行う。	①年2回の相互参観授業月間を含め,予定通り実施することができた。 ②定期考査前の学習状況では,概ね40%以上の生徒が1時間以上の学習を行っていた。平日は,1学年は25%程度,2学年は20%程度に留まった。 ③進路指導における満足度は,とても当てはまる59名(約35%),やや当てはまる95名(約56%)であり,合わせて91%であった。	初任者研修,授業力向上研修,中高ティームティーチング公開授業を実施し,授業研究会または,授業参観シートにより授業力向上研修を行った。 定期考査前の調査は進路希望調査によって実施し,平日は校内実力テストの生活アンケートで調査した。4月初よりも1月の調査結果において,学習をしない生徒の割合が向上していたため,平日の家庭学習時間向上が今後の課題である。 年間5回の進路希望調査を行い,個々の生徒の進路希望を教員間で共有することで,個別指導の見直し・実践を図ることができた。各教科と連携し,早朝補習や資格取得対策補習などを行うなどし,個々の生徒に応じたフォローアップができた。	B	【評価】 B	電子黒板が活用され,生徒一人一台タブレット端末などICTを用いた授業の活用を継続させる。 学科の特性はもとより,グループ学習や習熟度別,個別指導など場面場面に応じた展開の工夫を図る。 セントメアリーズ校との交流活動については,両校で協力しながら,withコロナ時代でも継続可能な方策を工夫して内容を充実させる。
	② 家庭学習時間1時間以上の割合 40%以上	③ 那賀高校は一人一人の希望・能力・適性に応じた,進路指導をしている。 「当てはまる」と答えた生徒の割合 80%以上				【所見】 教育課程についての共通認識,また教育計画の実践における教職員の協力体制もアンケートの結果,否定的な意見はなく概ね満足できる。 コロナ禍での制約がある中,セント・メアリーズ校との交流を継続させるため,両校で協力し,方法を模索している。 授業でわからないところがある場合,気軽に質問できるという生徒の割合が90.4%であり,概ね満足できる信頼関係が築けている。 様々な教育活動等により生徒は互いの学科について興味を示し,理解を進めていると評価している。	
	① 分かる授業と基礎基本を定着させる指導と支援	④ オンライン会議や電子メール等の活用による新しい生活様式に対応した国際交流活動を相手先担当者と検討を重ねて,実施する。	④各学期に数回,電子メールでやりとりをし,今後の交流活動の方針や実施方法を話し合い,授業の中で交流活動を実施した。	隔年での相互訪問交流は実施できなかったが,ICTを活用した交流活動について計画し,実施した。学校や生徒の紹介をスライドやポスターにして互いにデータで送り合い,それに関する質問をやりとりするなどの交流を行った。	A		いろいろと取り組んでもらっている。新型コロナウイルス感染症の影響で,取り組みにくいものもあると思われるが,引き続き生徒のために取り組んでもらいたい。
② 学習意欲を向上させ,学習習慣をつける指導	⑤ (両学科共通) 生徒の授業満足度 80%以上	・(普通科) 2年次からコース選択制の授業展開とし,コース選択におけるミスマッチがないよう,各コースの特長を生かしつつ,一人一人の進路希望に応じた指導を行う。 ・(森林クリエイト科) 林業学習を中心として,関係機関と連携し,地域資源の活用や最新技術の習得,インターンシップの充実,資格取得等をととして専門的知識・技術の深化を図る。 (7) 地域資源の活用 → 地域機関との連携学習を5回以上実施する。 (1) 最新技術の習得 → 高性能大型林業機械,ドローン等の講習会を3回以上実施する。 (9) 資格取得 → 林業関係の資格を3つ以上取得する。 ・生徒が那賀高校の特長である普通科と農業科(森林クリエイト科)併置の強みを理解できるように,教育活動の場面で周知を図る。	⑤生徒の授業満足度は約87%である。 ⑤それぞれの学科の教育活動について,互いに理解している生徒の割合は,約82%である。	普通科におけるコース選択ガイダンス等面談も繰り返し,生徒の満足度を上げることができた。 森林クリエイト科においても地域の特産品である木材を活用し,地元企業や販売店と連携した商品開発などを実施し,6次産業化学習を展開してきた。林業分野におけるインターンシップ,外部機関と連携した林業学習,流域林業事業体への見学研修などを,年間をとおして5回以上実施できた。資格取得においても,那賀町林業テクノスクールと連携し,卒業までに最大9つの林業分野の資格取得を行っている。 授業展開においてもICTを活用し,アクティブラーニングや協働学習に取り組めた。	A		
③ 効果的な習熟度別授業展開と個別指導の充実	⑤ 普通科及び森林クリエイト科の教育活動について互いに理解している生徒の割合 60%以上						
④ 国際交流活動を通しての異文化への興味・関心の向上と異文化理解							
⑤ 普通科及び森林クリエイト科の特長を生かした教育活動の充実							

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
2 心のかよう生徒指導	① 欠席数・遅刻者数 前年度の80%以下 ① 服装・頭髪検査違反者 全体の10%以下 ① 生徒が食生活や郷土の食文化に関心を持つ学校行事や授業	・学習習慣を確立,個人面談等を実施し,保護者との連携も図りながら,生徒が登校できるように支援する。 ・遅刻ゼロ週間,遅刻者集会を実施する。また,毎朝バス停留所前での登校指導の実施や遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させる。 ・全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施する。また,違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して指導する。 ・定期健康診断結果に基づき医療機関への受診勧告や保健指導の充実を図る。 ・食生活に関するアンケートを実施し,給食検討委員会や食育推進委員会を実施し,食に対する意識を高める。 ・地元の伝統的な相生晩茶の茶摘み体験を2年生福祉コースの生徒が行い,希望者には,地域の食材を用いた調理実習を行う。 ・寮生会議を毎月実施し,寮生が,自身の生活を振り返り,より良い生活となるよう,基本的生活習慣の確立や,規範意識を高揚させる機会となるようにする。	①欠席者数は前年度より3%の増加で,遅刻者数は54%の増加であった。 服装・頭髪検査違反者違反者は平均15%だった。多い月は19%,少ない月は11%であった。 地域の特産品や郷土料理に関する実習を年10回実施した。	①遅刻ゼロ週間,遅刻者集会を実施した。また,毎朝バス停留所前での登校指導の実施や遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させた。 全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施し,違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して再検査を行い指導した。 6月30日までに定期健康診断全項目を実施でき,有所見者には受診勧告を行った。定期健康診断の結果から学校生活を安全に送る上で必要な配慮を行うことができた。 食生活アンケートを3回実施し,給食検討委員会を1回行った。 茶摘みや「かきまぜ」実習,遊山箱のメニュー開発など,地域の方を講師に招き実習を行い交流を図った。 寮生会議を毎月初めに実施し,寮生のみで話し合い,寮生活を振り返ることができた。できたことできなかったことを明確にし,次につなげることができた。	B	【評価】 B 【所見】 欠席者数は,例年と比べても大差はないが,遅刻者数は年々増加傾向にある。また,頭髪・服装検査の違反者は,一桁台の違反者数の月がなく,常態化している。一方,高校生自転車セーフティラリーにおいて,今年度も違反者数はゼロであり,登下校中の大きな事故も発生しておらず,交通マナーアップへの取組の成果がみられる。 健康診断結果や寮での食生活アンケート結果,地域食材の活用等の啓発を行い,食や身の回りに対する関心を高め,感染症対策などの公衆衛生についても意識を高めることができた。 アンケートの結果を,寮での食事内容の改善に活かすことができた。寮生会議の開催により,できたことできなかったことを明確にし,次につなげることができた。 スクールカウンセラーや学習支援員,巡回相談員,学びサポーター等を積極的に活用し,生徒一人一人に応じた支援を充実させることができた。	遅刻ゼロ週間を通して,遅刻者への指導を徹底させ遅刻減少に努める。長期欠席者への早めの対応を心がけ,組織的に関わりながら,登校できるように促していく。服装・頭髪検査前後の指導も力を注ぎ,普段からの身だしなみへの意識を高めていき,常習化している生徒の改善を粘り強く行っていきたい。毎朝の登校指導,学校安全の日の呼びかけを継続して行い,交通安全の啓発活動を実施していく予定である。 多様な生徒の実態に応じ,引き続き関係機関と連携して外部人材等の積極的活用を推進する。
① 基本的生活習慣の確立 ② 安全・安心な学校教育の実施と保護者との連携強化 ③ 個別指導をととした生徒理解と望ましい集団づくり ④ 特別活動・部活動の更なる活性化と生徒・教職員の信頼関係の強化	② 交通・生活安全指導 毎月実施 ② 寮の帰省届・証明書提出率 100%	・毎朝バス停留前での登校指導を実施するほか,学校安全の日の登校指導を実施する。また,交通安全教室を年1回以上実施する。さらに,秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施する。 ・「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施するほか,携帯電話安全教室を実施する。また,地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き,合同巡視を実施する。 ・帰省や外出における規則を遵守させることで,規律を守ることや,防犯・安全に対する意識を高揚させる。	②交通・生活安全指導を毎月実施した。 ②寮の帰省届・証明書提出率は100%であった。	毎月の交通・生活安全指導のほか,交通安全教室を12月に実施したが,秋の交通安全運動は中止した。また,地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き,合同巡視を実施した。 生徒が,帰省や外出について監督の先生に伝える習慣が身につく,規則を守る意識が高まり,安全に過ごすことができた。	A		
	③ 感染症に罹患した生徒数の前年度比 減少 ③ AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会 年1回以上実施 ③ 学校生活に関するアンケート調査 年4回実施	・感染症や伝染病予防の充実を図るため,年度当初及び必要に応じて随時個人面談や保健調査を実施し,健康で安全な学校生活を送るために必要な情報を集め,学習環境を整える。 ・年4回環境衛生検査を実施し,結果をもとに安全で衛生的な学校生活を送るため,よりよい教室環境を整える。 ・保健委員会の活動として,感染症予防のための教室の換気や手洗い・うがい・マスクの励行など啓発する。 ・事故や災害に備えて,自他の生命を守るための知識と意識の高揚を図る。 ・生徒のメンタルケアと,いじめ等を早期発見するため,学校生活に関するアンケート調査を実施する。	③インフルエンザ罹患者は0名で,感染性胃腸炎は2名であったが,新型コロナウイルス感染症が数名出た。 ③AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会を実施した。 ③学校生活に関するアンケート調査を県教委実施分を含め年5回実施した。	定期的に新型コロナウイルス感染症に関する情報を生徒に提示し,感染症対策に取り組むことができ,迅速な対応の成果もあり,感染の拡大には至らなかった。新型コロナウイルス感染症対策としてアルコール消毒を実施するなど,感染症対策にも取り組んだ。 ③AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会を生徒対象1回,教員対象1回の計2回実施した。	B		先生方にはいろいろと取り組め,工夫してもらっている。生徒側にたてば,果たして身に付いているのか気になることもある。バス停の利用の仕方など地域から見て,気になることもあるが学校と協力していきたい。

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
	④ 球技大会や学校祭等の学校行事 「満足」と答えた生徒の割合 80% 以上	・部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図るとともに、部活動連絡協議会を通じて部活動生徒を指導する。全校一丸となった指導を行うことにより生徒・教職員の絆と信頼関係を強化する。 ・生徒会役員・部活動生徒が活躍し、特別活動関連行事が円滑に実施できるよう、企画から運営まで計画的に指導する。	④「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合は81%であった。	④部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図ることはできたが、部活動連絡協議会を効果的に開催することができなかった。各顧問の先生方の熱心な指導により生徒・教職員の絆と信頼関係を強化することができた。 生徒会役員・部活動生徒が活躍し、特別活動関連行事が円滑に実施できるよう、企画から運営まで計画的に実施できた。一方生徒会へ行事の全体像を伝えるのが直前になったり、新型コロナウイルス感染症防止のため開催形式の変更があったりして主体的に活動させることができない時もあった。	B		
	⑤ 担任による個別面談 年3回以上実施 夏季休業中の三者面談 全員実施 ⑤ スクールカウンセラーとの連携を密に図った教職員校内研修会 年1回以上実施 ⑤ 特別な支援が必要な生徒の指導について、関係機関において相談や支援が受けられるよう、生徒や保護者に働きかけを必要に応じて行う。	・教育相談や特別な支援を要する生徒を早期に発見し、保護者とも連携して、適切な対応・支援をする。 ・学習支援員とも連携し、支援を要する生徒へのきめ細やかな指導を行う。 ・各学年団との情報交換をするとともに、教育相談に関するアンケートを年3回以上実施する。 ・校内研修会（ケース会議を含む）の実施により、教職員の特別支援教育に関する理解を深め、生徒への指導や支援に活かす。また、学年会や教科会において情報交換を図り、適切な支援や対応について共通理解をする。生徒・保護者対象に、相談の啓発を行い、円滑な学校生活への支援体制を築く。 ・卒業後の進路実現を視野に入れ、保護者とも連携が図れるよう、早い段階から面談を実施する。	⑤各学期に担任による個別面談を実施し、夏季休業中に三者面談を実施した。 ⑤学年団とも連携し、支援を要する生徒に対して、学習支援員やスクールカウンセラーにも協力を得、きめ細かな指導を心がけた。 ⑤特別支援教育に関する研修会においては、15中学校からの参加があったほか、保護者面談の折に課員が同席し、今後の支援の在り方について共通理解を図った。	⑤学習支援員がT2として授業に入ることで、支援を必要とする生徒はもちろん、全体の生徒へのきめ細かい指導に繋げることができた。学校生活に関するアンケートでは、学校生活に関する満足度は毎回80%以上であった。 みなと高等学園の2名の巡回相談員による指導・助言を生徒への指導や支援に活かすことができた。 スクールカウンセラーとも連携を密にし、教育相談活動を充実させることができた。	B		

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価
3 学びあい響きあい高め あう心の教育の推進 ① 豊かな人間性と社会性の涵養により自信や誇りをもたせる ② 人権意識の高揚と一人一人の人権が尊重される学校づくり ③ 情報モラル教育の推進 ④ 学校・家庭・地域との連携の強化	① 学校行事により、集団への帰属意識や協調性が養われたと答えた生徒の割合 80%以上	・遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験入学・企業へのインターンシップなどの行事において、地域住民や中学生との交流を深めることにより、マナーやモラル、思いやりを身につけ、人間性や社会性を高める。	①「学校行事に仲間と協力して取り組むことができた」に肯定的な回答（「当てはまる」「やや当てはまる」）と答えた生徒は89%であった。	①遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験入学・企業へのインターンシップなどの行事において、地域住民や中学生との交流を深めることにより、マナーやモラル、思いやりを身につけ、人間性や社会性を高めることができた。	A 【評価】 【所見】 生徒は、自分の役割分担に責任をもって学校行事に取り組むことができた。日直・舎監の先生は、積極的に生徒に声かけを行うことができた。 生徒の安全・安心を確保するため、新型コロナウイルス感染症感染防止対策をとるなかでも、生徒の心情に響く講演会や映画会開催、様々な問題を自分事として捉えることができるように粘り強い指導によって、温かい人間関係構築を促すことができた。	中学校や地域住民との交流活動をはじめとする校外での活動を充実させ、協調性や自尊感情、自己有用感・自己肯定感を高め、他者に対する思いやりやモラルを高めるための教育活動を充実させる。 いじめや学校生活に関するアンケートなどを丁寧にやってもらっている。今後とも生徒の声を聞き漏らさず一人一人に寄り添う教育を行ってほしい。
	② 校内人権問題意見発表会や人権映画鑑賞会などの行事年1回以上開催 ② いじめ等のアンケート調査年4回実施	・生徒の人権意識の高揚のために、校内人権問題意見発表会で身近な人の意見を聞くことにより、様々な人権課題を自分自身の問題として捉え、人権問題を解決する意欲や実践力を養う。 ・映画のストーリーについて考えたり、登場人物の気持ちに寄り添ったりすることによって、自他を尊重する態度を育成できるよう、連携中学校と相談しながら映画を選定する。 ・具体的な差別事象に触れ、人権に関わる様々な問題が身の回りで発生していることを理解させるため、外部講師による講演会を実施する。 ・アンケート調査結果により、人間関係の把握に努め、助言や支援が必要な生徒には、速やかに面談を実施する。 ・家族的なあたたかい雰囲気づくりに努めるために、学期に1回部屋替え及び役割分担の変更を行い、レクリエーションを年3回実施し、学年間の交流を促進する。寮生活に慣れることができるよう、日直・舎監が積極的に声かけをし、寮生全体の雰囲気を把握する。	②校内人権問題意見発表会と人権映画鑑賞会を各1回ずつ、計2回実施した。 ②いじめ等学校生活に関わるアンケート調査を県教委実施分を含め年6回実施した。	校内人権問題意見発表会で身近な人の意見を聞くことにより、社会で問題となっている問題など様々な人権課題を自分自身の問題として捉え、人権問題を解決する意欲や実践力を養う機会を持つことができた。また、映画のストーリーについて考え、登場人物の気持ちに寄り添うことで人権意識の向上を図ることができた。 寮内では新型コロナウイルス感染症感染防止のため、極力個室とし、部屋替えやレクリエーションは中止となったが、生徒はあたたかい雰囲気寮生活を送ることができた。		
	③ インターネットやSNS等の利用における情報モラルに関する人権放送等の全学年行事年1回以上実施	・タブレット端末の使用にあたってのルール作りを進め、家庭での活用について保護者との連携を進める。 ・教科指導のみならず全てのICT活用場面の機会を捉えて情報モラルに対する啓発を行う。 ・人権放送において、インターネットやSNS等に関する情報モラルのテーマを設定する。	③人権デーで「SNSにおける誹謗中傷について」をテーマに人権放送を実施した。	③校内放送により全校一斉に、インターネットによる人権侵害について、法律で禁止されていることや自分が被害者になった時の対処法などを考えたり、学んだりすることができた。		
	④ 学校・家庭・地域との連携の強化を図るために、PTAや人権擁護委員に対して人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会への参加を依頼し、広報する。 ④ 人権教育の展示コーナーに対するアンケート調査「充実している」と答えた割合80%以上	・保護者・地域・近隣学校を対象にした人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会の案内を、ホームページへの掲載等を通じて行う。 ・人権擁護委員へ参加を依頼し、連携を強化する。 ・文化祭での「ゆずの会」による展示を充実したものにす。	④校内人権問題意見発表会人権擁護委員の方や連携中学校の先生に来賓として参加していただいた。 新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う文化祭の規模縮小により、全展示部門が実施されなかった。	④各行事への連携中学校生徒や保護者の参加については見合わせたが、連携中学校教員や那賀町人権擁護委員の方には参加頂けた。素晴らしい内容であったというお言葉も頂いた。文化祭は展示の部がなかったが、部活動の様子や行事の様子をホームページに掲載した。		

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
4 夢をはぐくむ進路指導	① 進学希望者対象の早朝補習 1・2学年 週3回 3学年 週5回実施 ① 個々の進路実現に向け、個別の説明会、模擬試験、放課後補習などの指導を実施する。	・基礎学力の底上げと、校外模試に対応できる応用力を養うために、年度当初に教科と連携して補習の在り方を検討し、早朝補習を計画・実施する。 ・進路検討会等により、担任面談結果を学年団で共有し、生徒の指導を連携して実施する。 ・大学等の教職員を招き生徒対象の進路ガイダンスを行う。 ・総合的な探究の時間（FDタイム）を活用して、大学・専門学校等の訪問（1年）やインターンシップ（2年）の振り返りを実施し、生徒のキャリア形成を支援する。	①1・2学年では週3回、3学年では進学・就職・公務員のコースに分かれ、週5回の早朝補習を実施した。 ①校外模試対策および各種資格取得対策補習も放課後等に実施した。	①早朝補習は計画通りに実施することができた。長期休業期間中の補習などで、スタディサブリ到達度テストの結果を踏まえ、スタディサブリ等の動画教材を活用するなどして、個々の学力に対応した学びを実現した。 5月に実施した3学年の進路検討会では、個々の生徒の進路希望を共有し、個別に応じた指導計画を立てることができた。 進路ガイダンスでは、県外大学や専門学校はオンラインで対応するなど、対面式とオンライン方式を融合して各行事を実施することができた。	A	【評価】 B 【所見】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度当初の計画から変更せざるを得ない行事もあったが、オンライン環境が整ったことにより、対面とオンラインを上手く組み合わせて、各種行事を実施することができた。次年度以降もWithコロナ時代に柔軟に対応した、進路指導が実現できるように、教職員および各関係機関とも連携をとりながら、進路指導の推進を図りたい。 資格取得が自信につながる者も多いが、準備不足な者も見られるため、合格を目指し、資格取得に向けた学習意欲を醸成したい。	引き続きWithコロナ時代に柔軟に対応した、進路指導が実現できるように、教職員および各関係機関とも連携をとりながら、進路指導の推進を図る予定である。新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、急な内容変更等が求められる場合が多いため、BCPを意識した企画立案を進めていく必要がある。また、資格取得に際して、より主体的に取り組むよう、進路志望を意識させて資格の意義を理解させたい。
	② 進路意識を向上させる各種行事の計画と実施	② 学年段階や学科・コースに応じた進路ガイダンス 年2回以上実施 大学等訪問（1年） インターンシップ（2年）実施	②7月と3月には校内進路ガイダンスを実施した。大学・専門学校訪問は11月、インターンシップは10月に実施した。	②進路ガイダンスでは、県外大学や専門学校はオンラインで対応するなど、対面式とオンライン方式を融合して各行事を実施することができた。			
	③ 進路ガイダンスの充実と教職員のガイダンス能力の向上	③ 校内説明会やオンライン研修 年3回以上開催 研修会 教員の70%以上参加	③教員対象大学説明会（5月）、大学生等によるキャリアガイダンス（12月）、進路ガイダンス（7・3月）を実施した。学年単位の研修には全員、全体研修にも出張等を除き全員が参加した。	③大学職員や大学生等を招いて、進路研修会やガイダンスをオンラインと対面の両方を活用して実施することができた。スタディサブリやClassiの中で開催されている教員研修などもGIGAスクール推進委員会と連携して広報し、積極的な受講を促した。			
	④ 資格取得・検定合格に向けた指導の充実	④ 生徒個々の能力にあった資格取得の指導を徹底し、各科と連携を図りながら、資格検定を実施 各学期3回以上	④英検・漢検・数検や農業系資格など、あわせて16の資格試験や講習を各学期平均9.6回実施した。 ④全校生徒の資格取得率は69.8%であった。	④16の資格に対して、土日や平日の放課後、農業系講習は夏季休業中や平日の特別時間割によって延べ30回実施した。 ④学年別の資格取得率は1学年が76.4%、2学年が79.3%であり、進学・就職などの受験となる3学年は54.2%であった。			
	⑤ 保護者対象進路説明会の充実	⑤ 各学年の保護者対象の進路説明会 年1回開催 同 参加率 50%以上	⑤1学年は10月、2学年は12月、3学年は6月に実施した。 保護者の参加率は全体で約50%である。	学年ごとの保護者参加率は、1学年が約46%、2学年が約53%、3学年が約45%であり、全体で約50%となった。			生徒一人一人の特性や進路希望に合わせて指導をしてくれている。コロナ禍での制約もあるが、引き続き家庭との連携も進めてほしい。

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
5 G I G A スクール構想の推進と防災教育・環境教育の充実	① タブレット端末を活用した授業やポートフォリオ作成に向けた体制整備を行う。	・Classiやスタディサプリ、MetaMoJiの活用方法についてweb研修等を活用する。 ・情報セキュリティ担当部署を強化する。 ・共有フォルダや動画等を活用した研修、教員同士の協働を推進し、全員が集まった研修を減少させる。	1学期にクラウドサービスの研修及び説明会を行った。資料を共有フォルダやTeamsを活用して、情報共有している。	生徒タブレット端末導入初年度ということもあるが、情報セキュリティ委員会やGIGASクール推進委員会が十分機能していない。個々の能力に頼っている現状から組織的な運用に移行したい。	B	【評価】 B 【所見】 GIGAスクール構想に基づくタブレット端末の活用を、持続可能な取組とするためには組織的な対応ができるよう体制を強化する必要がある。 エシカルクラブの活動が評価され、協力団体等も増加したほか、公益法人消費者関連専門家会議から第7回ACAP消費者志向表彰において「選考委員奨励章」をいただくなど、外部からも高く評価された。エシカル消費に関わる活動とSDGsとの関連性についての理解が十分ではない現状にある。	教員個々のITスキル等によって、GIGAスクール構想に取り組み方に差がある。職員室でのOJTをはじめとし、すべての教員に取り組みやすい環境を構築する。 「服活」の取組を持続可能なものとするため、関わる生徒の増加や成果・意義の普及に努める必要がある。
	① GIGAスクール構想の推進による学びと働き方の改革 ② 防災・減災教育の深化とエシカル教育の充実 ③ 「徳島県新学校版環境ISO」の認定取得経験を生かした環境教育の実践 ④ 校内外の環境美化活動の推進	② 防災避難訓練・講習会等 年4回以上実施 ② エシカル消費に関わる『服活』等のイベント 年3回以上実施 校外への広報活動 年3回以上実施	・防災避難訓練を学校や寮で実施し、生徒の学校防災人材支援講座への参加を支援する。 ・防災食づくり講習会を通して地域の方との交流を深め、防災意識の向上を図る。 ・ホームページやポスター掲示により、服の回収や「服活」イベントへの積極的な参加を呼びかける。	校内防災避難訓練を2回、寮での避難訓練を1回実施し、那賀町防災士の会（仮）立ち上げ行事、那賀川河川事務所出前講座（防災キャンプ）等への参加など、あわせて8回行った。 ②「服活」を校内外あわせて9回実施した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を判断しつつ、9・12月に防災避難訓練を実施することができた。防災士試験では受験者5名のうち2名が合格することができた。 家庭クラブ員やJRC部員を中心に、各イベントに参加し、「服活」を行った。3200着以上譲渡することができた。	A	
		③④ ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合 90%以上 ③④「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合 80%以上 ③④ SDGsを『知っている」と答えた生徒の割合 60%以上	・各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるよう、定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行う。 ・環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで、校内美化活動を推進する。 ・那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むとともに、バス利用者にマナーの遵守を呼びかける。 ・節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し、徹底した省エネ意識の高揚を行う。 ・身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深める。	・ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合は、約85%であった。 ・「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合は約70%であった。 「服活」=SDGsの結びつきを理解している生徒の割合は、約90%である。	ストックヤードでのゴミの分別方法と呼びかけなども行った。 各学期の終わりや行事前などに大掃除を設け、普段では行き届かない場所の清掃を行い、教室の環境整備等、校内美化活動を推進することができた。 家庭基礎の授業で1回、家庭クラブ員・JRC部員を対象に1回のSDGsに関する講習を行った。SDGsが「服活」等エシカル消費活動との関連性を理解できていない生徒もいる。	B	
							GIGAスクール構想は今後ますます進展していき、中山間部にある那賀高校にとっても重要な取組になる。引き続き学校の取組を期待している。是非、地元の小中学校との連携も進めてほしい。エシカル消費の取組は全国で表彰されるなど、とても素晴らしい。これからも続けてほしいし、私たちも協力したい。

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
6 連携型中高一貫教育プログラムの推進	① 中高一貫教育研究委員会の教務委員会を活用し、チームティーチングにおけるオンライン教育での連携のあり方について検討を進める。	・TT実施時間の確保に努め、またTTの方法についてICTの活用を含め中高一貫教育研究委員会の教務委員会において検討する。 ・タブレット端末の教育活動における活用状況について、連携3中学校と情報交換し、高校への円滑な移行について協議する。 ・高校・中学校双方が実施する授業研究会や公開授業について、オンライン・オフライン問わず積極的に参加する。	① 中高一貫教育研究委員会教務委員会の具体的方策の一つに、今年度からタブレット端末等の活用を取り上げて、委員会を2回開催した。	基本的に毎週2時間のチームティーチングを実施することができている。チームティーチングでのタブレット端末の活用については、遠隔で授業を行ったり、タブレット端末を用いた授業にも取り組んでいる。中学校での導入が秋以降となったため、今後さらに活用を進める予定である。 授業研究会や公開授業もコロナ禍により制限がある中でも、工夫して開催された。	【評価】 B	【所見】 中高一貫教育におけるチームティーチングの活動は授業であるため、最大限に実施できているものの、引き続きコロナ禍による活動制限が多くあった部活動や生徒会活動等においては、十分に取り組みることができなかった。オンラインでの交流活動等については、昨年度に引き続き実施されていることもあり、生徒・教員ともに慣れできている。回線不具合時での対応をはじめ進行や内容にも工夫が見られ、充実してきている。	中高一貫教育における連携活動の実績は十分なされている。中学校、高校双方にとってよりよい連携のあり方の検討が課題である。距離を障壁としないオンラインの活用、現実での交流活動の意義、双方の利点を活かしたハイブリッドな教育活動の充実に努めたい。
① 地元中学校との連携を強化した授業の実践					B		
② 学校行事における合同事業の充実							
③ 連携中学校への積極的なPR活動	② 新しい生活様式下での学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。 ② 各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。 ② 那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会年1回実施	・那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。 ・各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。 ・那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。 ・連携中学校での学校行事や学級会活動において、那賀高校の説明を実施したり、生徒会同士の交流を行ったりする。	② 中高一貫特別活動委員会を2回実施(1度目はオンライン、2度目は那賀高校)。 ② 連携中学校限定の合同練習等についてはコロナ禍により計画することができなかった。 ② 8月に中高生徒会研修をオンラインで実施し、交流を図った。	各行事への連携中学校生の参加については早い段階で打ち合わせを実施した。 オープンスクールでの部活動見学を実施したほか、体育祭や文化祭においては今年度も連携中学校生の参加はできなかった。カヌー部では中学生の体験会を4回開催した。 中高生徒会研修の時にオンラインで情報交換や交流をすることができた。	B		コロナ禍での制約により、リアルな体験としての交流活動は十分に行うことができなかったが、その中でもGIGAスクール構想でのオンラインを活用したことはよかった。特定の授業だけでなく、総合的な学習/探究の時間などで連携が進むとよいと考える。
	③ 各連携中学校とテレビ会議システムを用いた生徒同士の交流年5回以上実施	・連携各中学校とテレビ会議システムを活用し学校紹介をする。	③ 2月に那賀町内3中学校とのTV会議を実施した。	Zoomで会議を開催し、那賀町内出身生徒および生徒会役員と、連携中学校の1年生との交流を行った。	A		

令和3年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評 価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
7 地域に開かれた活力あ る学校づくりの推進	① 学校運営協議会において、 学校振興について協議し、新し い取組を検討する。	・学校運営協議会を年3回実施し、特色ある教育 活動等を協議し、学校振興に係る新しい取組を 検討する。	①学校運営協議会を年3回実 施することができた。	①学校運営協議会委員からは、学校運営の 充実に資する指導や助言をいただいた。	B	【評価】 A	コロナ禍によって過去2年間は学校運営協 議会を活用した学校振興に資する外部人材 の活用が不十分であったので、今後積極的 に取り組みたい。新しい生活様式の中でで きる地域との交流活動を今後も工夫して取 り組むとともに、ホームページを活用して積 極的に情報発信したい。
① コミュニティ・スクー ルの導入による地域とと もにある学校づくり	② 球技大会や学校祭等の学校 行事について、「満足」と答えた 生徒の割合 80%以上(再掲)	・学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生 徒会が中心となる取組を検討する。 ・参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア 活動等で参加する。 ・一般公開される行事の期日・内容等を地域の ケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地 域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画 して実施する。 ・コロナ禍においても、那賀高祭等の学校行事や 日々の学校生活について保護者の意見を聞く機 会を設けられるようICTの活用等について工夫す る。	②「当てはまる」「やや当てはま る」と答えた生徒の割合は81% であった。 ②今年度は一般公開される行 事はなかった。	②学校祭や壮行会、球技大会など生徒会が 中心となり、企画、運営を行うことができた。 ②ボランティア活動に積極的に参加する生 徒が出た。 ②一般公開される行事はなかったが、学校 行事においては頻度高くホームページの更 新をすることにより内容をPRできた。	A	【所見】 コロナ禍においても、WEBを用いた企 業見学を行うなど、新しい取組をすること ができた。 学校行事の一般公開はなかったが、校 外のコンテスト等への応募、学校生活全 般のホームページでの紹介等に積極的 に取り組んだ。特にホームページは、慶應 義塾大学が実施する「全国農業高校・農 業大学校デジタルコンテスト ホームペー ジ部門」に徳島県代表として他薦される など、外部から高く評価された。なお、月 平均のアクセス数は約10万カウントであ る。	コロナ禍での制約により、地域の 方々と直接関わることは少なかっ たが、ホームページの更新が多く 学校生活がよくわかった。引き続 き那賀高校の良さを発信してほし い。
② 魅力ある学校行事の 実施と保護者や地域の 人々への学校公開	② 一般公開される行事(那賀 高祭等)について、期日・内容 等を早期から広くPRする。						
③ ホームページ、広報 新聞、ケーブルテレビ等 によるPR	③ 広報新聞(「せせらぎ新 聞」) 年3回発行 ホームページ 月20回以上 更新	・広報新聞の紙面構成を検討し、内容を充実させ る。 ・ホームページでは、学校の教育活動についての 広報や保護者への案内、学校行事ごとに内容を 更新する。 ・部活動の戦績や、試合日程、練習計画等につい て月1回以上ホームページに掲載する。	③「せせらぎ新聞」を年3回発 行した。 ③ホームページは月平均33回 更新した。	②発行した「せせらぎ新聞」を生徒教職員は もとより、那賀町内全世帯に配付した。 ②部活動等はコロナ禍により大会等がなくな り掲載が少ない部もあったが、学校生活全般 についてホームページへの積極的な掲載を 進めることができた。	A		
④ 地域との連携を密に した学習活動と地域の担 い手となる「人財」の育 成	④ 地域の方を社会人講師とし た授業 年5回以上実施 ④ 地元産業の体験活動 年1回以上実施 ④ 地元でのインターンシップを 実施する。	・社会人講師を招いて「福祉」「情報」の授業を 展開したり、林業関係の講演会、研修会を実施す る。 ・茶摘みや漬け込み作業等、地域の伝統産業の 体験活動を実施する。特に重要無形民俗文化財 となった「阿波晩茶」(相生晩茶)については、伝 統文化についても考えさせる。 ・進路選択に繋がるインターンシップを2学年で2 日間実施する。	④林業関係の講演会、研修会を 年間を通して実施できた。 ④2学年で、10月末に2日間の インターンシップを実施できた。	④農業科においては、講演会、資格取得を含 めた林業研修会を1年生7回、2年生8回、3 年生6回実施した。 ④コロナ禍ではあるが、概ね生徒の希望する 業種でのインターンシップを実施できた。	A		